▶教科書p.4〜11

ONGAKUをはじめよう

教科書の冒頭においた「はじめよう」のねらいや構成は次の通り。

○アンサンブルする楽しみを知る。→そのために，さまざまな要素を一緒に演奏できる仕掛けがたくさん。特に黄色のコーナー。

○楽譜の読み方などの基本的な知識が身についていない生徒のために，初歩から手ほどきしている。→「楽典コーナー」や「楽譜を書こう」，「楽譜を読もう」といったコーナーを軸に青色で示してある。

○さまざまな実習をしてみる。→楽しみながら音楽の世界へと誘う。これは緑色。

○発声方法などを知る。→赤。

○その他「memo」によりさまざまな知識を得る。

そして，この「はじめよう」は教科書内のいたるところにリンクしており，自然と，教科書全体への興味を引き出させ，音楽への関心が高まるように構成してある。

ここでは，この「はじめよう」を使って具体的にどのように授業を展開していくか，そのサンプルを挙げておく。

1 リズムに乗って
〔p.4〜5〕

STEP1

——さあ，みんなで「STEP1」の［リズムA］を手で叩いてみよう。

【確認事項】

●拍子，4分音符，8分音符，4分休符→「楽典コーナー」。

●アクセント記号，Andante→p.148。

これらを確認ののち，もう一度実習してみる。

——何か別の音でやってみよう。

手近にあるいろいろな打楽器を使って実習。テンポを上げて活気あるリズムを演奏してもよい。

——このようなものを「リズム」と呼びますね。「リズム」とは何だろう。

→p.5「memo」。実際には，「リズム」の定義は難しいが，この言葉が日常にも用いられていることを確認。

STEP2

——さあ，きょうは，「リズム」を使っていろいろな演奏をしてみたい。

と，STEP2に進む。［ア］を板書し，

——これは8分音符が八つ。

教科書には，1から8までの数字を書いた紙やトランプを使用するとあるが，簡略化するために次の方法でもよい。

——それではこの八つの音符に1から8までランダムに番号を振っておこう。

そして，今日は4月12日だから，「4」と「1」と「2」，それから1と2を足して「3」，もう一声，4と2を掛けて「8」，これら五つの番号が振られた音符を残し，あとは休符にしてリズムをつくってみよう。みんな違ったリズムができるはずだ。「1，2，3，4，8」の番号ですよ。

みなさんそれぞれのリズム［イ］を［リズムB］のところに書いてください。どんなリズムができたか，誰か黒板に書いてみてください。

と，ここで，連桁を使った記譜の実習を行うこともできる。また全員で同じリズムを演奏する練習もできる。

——さて，本当はこのように1人ずつのリズムを演奏してもらいたいけれど，今日は4人のグループをつくってアンサンブルしてみましょう。

みんなで一緒に演奏することを「アンサンブル」と言います。全員で手を叩いてもいいし，さっき演奏したように，いろいろな打楽器を使ってもいいですよ。

4名のグループでの実習が終わったら，二つのグループを合同にさせるなどして，次第に大きなアンサンブルの輪をつくるとよい。

【発　展】

●ここでは，五つの8分音符を使ったリズムで実習させているが，四つ，三つなど変えてみてもよい。音符の数が少ないほど難易度が高くなる一方，大人数で演奏したときによりユニークなリズムとなる。あるいは漸次音を増やしたり減らしたりすることで，リズムの練習にも役立たせることができる。

●ここから，p.138「つくろう」冒頭の「ヴォイス・リズム」へ持っていき，創作への興味を引き出すことができる。

●また，各自の［リズムB］に合わせて言葉を付けて，ヴォイス・アンサンブルをすることもできる。たとえば教科書掲載のリズム［イ］の場合，「フットボールだ」「あっ飛行機だ」など。そしてp.78「Football Canon」，「野菜の気持ち」へと興味を広げることができる。

リズムあれこれ

——さて，今度はいろいろと特徴あるリズムを知っておこう。

と［リズムC］の紹介。手拍子やそれぞれの楽器を使って実習。16分音符，8分休符，16分休符，タイなどを確認。

——この［リズムC］の8ビートと，さっきの［リズムB］とに分かれてアンサンブルをしてみよう。

それから［リズムA］も一緒に演奏してみよう。

【アンサンブルの例】

［リズムA］（クラスの半数程度）→手拍子。

［リズムB］（クラスの半数程度。各自のリズムで）→カスタネットなど。

［リズムC］の8ビート（数名）→サスペンデッド・シンバルをスティックで。あるいはタンブリン。

STEP3

——ところで「翼をください」を知っていますか。「この大空に〜」というところから歌ってみましょう。

［メロディーA］の部分です。

伴奏譜としてp.12を使用。

さて，いままでいろいろなリズムを演奏してきましたが，これをこの［メロディーA］とも一緒に演奏できるのです。（さあここで生徒たちの驚きの反応が得られるか）。

【演奏の手順】

①［リズムA］と［メロディーA］を一緒に

②［リズムA］+［リズムB］+［メロディーA］

③［リズムA］+［リズムB］+［リズムC］の8ビート（あるいはサンバでも良い）+［メロディーA］

リズムにメロディーが乗った喜びを体感する。

楽譜を書こう

——さあ，これまでは，リズムを演奏したり，歌ったりしましたが，今度は楽譜を書いてみましょう。p.5の「楽譜を書こう」のコーナーでは，いろいろな長さや高さの音符が薄く書かれていますので，なぞって楽譜を完成させてください。

高音部譜表に慣れていない生徒もいることを考え，ここではあえてF，G，Aの音だけを使っている。高音部譜表の読譜の要となる「ト音記号」の「ト」音＝Gを確実に覚え，その隣のF，Aも覚えさせる。一方［メロディーA］の音符を読ませることによってF音（1点ヘ）からE♭音（2点変ホ）まで，つまり五線内の音符のほぼすべてを覚えることになる。

——楽譜が完成したら，音名でリズム読みしてみよう。

音程を付けずに，「ファ，ソ，ラ」などと音名をリズム正しく読ませる。

——次にこれを「ラララ」で歌ってみましょう。

さて，実は，この「楽譜を書こう」の楽譜は，さっき演奏した「翼をください」のアンサンブルと一緒に演奏することができるのです。（さあここで生徒たちの驚きの反応が得られるか）。

クラスの半数を［メロディーA］と［楽譜を書こう］のメロディーとに分け，4分の1程度の人数が［リズムA］，4分の1弱を［リズムB］（各自のリズム），数名で［リズムC］（8ビートもしくはサンバ）